

1. 事業の概要 (Plan)

	コード	名 称		担当所属	農林水産課			
事務事業	302016	有害鳥獣対策経費		氏 名	課長 瀬賀 功			
総合計画での位置づけ	政策	3-1	農業の振興	予算科目	会計	01 一般会計		
		1	総合的な農業振興の推進		款	06 農林水産業費		
	施策				項	01 農業費		
根拠法令・要綱等		鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律					目	03 農業振興費
対 象 (誰を、何を、どこを)		市民等 (農作物の鳥獣被害に遭っている地域)						
目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		有害鳥獣による農作物被害の軽減						
開始年度	平成 20 年度	関連事業	合併前の旧市町村単位でも有害鳥獣対策事業を実施済					
終了年度	平成 - 年度							
本年度事業内容 (目的実現のための手段及び活動実施内容、やり方、手順など)		有害鳥獣捕獲業務委託 (新潟県猟友会村上支部への委託) 有害鳥獣捕獲の担い手確保事業 (新規に猟銃等の免許取得者に対する支援) 村上市有害鳥獣被害防止対策協議会事業 (電気柵の設置、集落説明会の開催、ニホンザルの生息調査等) 新規事業として、ニホンザルの被害に遭っている集落のうち2集落を重点集落に指定し、住民の有害鳥獣対策に対する意識向上を目的とした環境診断・ワークショップ等を実施。電気柵設置以外で集落として行ふべき対策について、今後集落が補助金等を活用し、対策を実施する。						

2. 事業実施実績と実施見込み (Do)

活動指標	指 標 名	単位	H23		H24		H25		H26	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
			有害鳥獣 (ニホンザル) の捕獲	匹	250	182	250	387	350	270
鳥獣害防止施設 (電気柵) の設置	m	目標	-	目標	-	目標	8,000	目標	8,000	
		実績	6,070	実績	8,380	実績	8,090	実績	9,677	

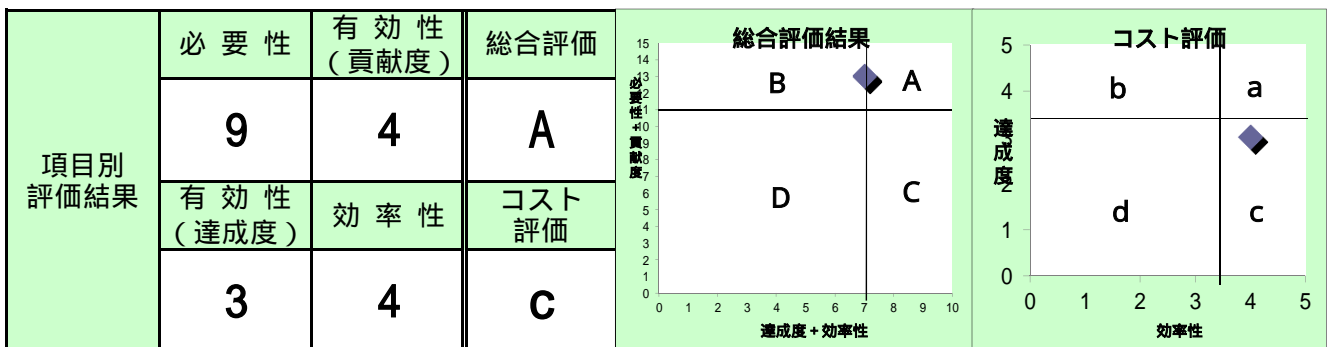
成果指標	指 標 名	指標設定の考え方	単位	H23		H24		H25		H26	
				目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
				農作物被害額	有害鳥獣による農作物被害額	千円	-	24,641	20,864	31,330	-
			目標	-	目標	-	目標	-	目標	-	
			実績		実績		実績		実績	見込	

数値で表せない成果 (見込み) 平成25年度調査 (調査日は平成26年4月) より、調査方式を大幅に見直した (以前はJ Aに確認していたところを、改めて関係集落に文書による被害調査を実施) ため、平成24年度と比較して被害額に大きな差がある。

事業	年 度	H23 (決算額)		H24 (決算額)		H25 (決算額)		H26 (当初予算額)		H26 (見込み額)	
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)		
業	直接事業費 a	2,920	4,979	5,661	7,448	7,607					
	(主な費用)	有害鳥獣駆除委託料	2,870	2,870	2,870	2,870	2,870				
		村上市有害鳥獣被害防止対策協議会負担金	50	2,038	2,708	4,279	4,394				
コ	財源内訳	国庫支出金									
		県支出金									
		地方債									
		その他									
		一般財源	2,920	4,979	5,661	7,448	7,607				
ス	人件費 b	0.500人	3,797	0.500人	3,749	0.500人	3,734	0.500人	3,692	0.500人	3,692
	総コスト(a+b) c	6,717	8,728	9,395	11,140	11,299					
ト	市民一人当たりの額(c/人口)	(円)	100	(円)	132	(円)	143	(円)	172	(円)	175

3. 事業の評価 (Check)

区分		評価		説明
必要性	ニーズ	5	ますますニーズが高くなっている。	農家の高齢化に伴う耕作放棄地の増加や森林等の管理が昔と比べて少なくなったため、ニホンザルの出没・被害が年々増えてきており、住民から対策に関する問い合わせが多い。
	公共性	4	民間でも可能だが行政が担うべき事業である。	個人・集落単位で対策費用を捻出するのは困難でありニホンザルを誘引しにくい集落環境づくりの整備や、防除活動に対する支援等が必要と考える。
有効性	達成度	3	どちらとも言えない。	市からの支援等によりニホンザルの被害が少なくなった地域がある一方、今まで被害がなかった地域にも新たに被害の情報があり、引き続き事業を進めていく必要がある。
	貢献度	4	昨年と同程度の成果をあげ、施策に反映されている。	他地域での取組等も情報収集しつつ、新規事業を行うなどして、被害防除に努めている。また、新たに集落環境診断・ワークショップを実施するなど、意識啓発に努めている。
効率性		4	事業に見合うコストである。	市民からの要望を汲んだ上で、県からの交付金を受けながら、効率よく事業を進めている。



4. 今後の方向性 (Action)

事業の 方向性	方向性	拡充
	理由	鳥獣被害対策の実践的活動を担う「鳥獣被害対策実施隊」の設置や、今後も増大することが見込まれるニホンザルやツキノワグマによる被害に対する防除等事業の実施、更には、県内でイノシシによる被害が増加している状況を鑑みて、現行の事業の他にも新たな事業を進めて行く必要があるため。
	今後の対応 (改善策等)	村上市鳥獣被害対策実施隊の設置(12月議会に併せて報酬等の条例改正および要綱制定予定) 近接警戒システムの導入(サルが集落に近づいてきたら、警報が鳴る仕組み) ツキノワグマ用の捕獲檻の導入(老朽化ならびに被害防止のため) テレメトリー調査の一部方式の改善 (サルの現在地が把握できる一方、集落への周知が徹底されていないため、マニュアル等の整備が必要)

5. 【総合評価】(行財政改革推進本部会議)

今後の方向性	
結論	当該事業の今後の方向性はどうか。 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 再構築 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
	(理由)
	担当課の方向性を了承する。

活動指標	指標名	単位	H23		H24		H25		H26	
	ワークショップ実施回数(集落数)	回	目標	-	目標	-	目標	-	目標	2
			実績	0	実績	0	実績	0	見込	2
	メスザルへの発信器装着数	匹	目標	-	目標	20	目標	20	目標	20
			実績	4	実績	7	実績	10	見込	11
	有害鳥獣(カラス)の駆除数	羽	目標	500	目標	500	目標	500	目標	500
実績			309	実績	354	実績	345	見込	254	
		目標		目標		目標		目標		
		実績		実績		実績		見込		
		目標		目標		目標		目標		
		実績		実績		実績		見込		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	H23		H24		H25		H26		
					目標	-	目標	-	目標	-	目標	
					実績	-	実績	-	実績		見込	
					目標	-	目標	-	目標	-	目標	
					実績	-	実績	-	実績		見込	
					目標	-	目標	-	目標	-	目標	
実績					-	実績	-	実績		見込		
				目標		目標		目標		目標		
				実績		実績		実績		見込		
				目標		目標		目標		目標		
				実績		実績		実績		見込		

数値で 表せない成果 (見込み)	
------------------------	--